

事業実施報告書

団体名：一般社団法人埼玉県がん・生殖医療ネットワーク

事業名：若年がんサバイバーに対する里親・養子縁組制度啓発のための市民公開講座

1 事業の目的

若年がんサバイバーが家族形成を含めた豊かな人生を送るためには、妊孕性温存療法の発展とともに里親制度・特別養子縁組制度の普及も重要である。その普及・啓発のためにもがん・生殖医療と福祉の協働が必要である。お互いにいまだ普及が十分といえない両領域が協働し、社会的弱者ともいえるがんサバイバーと要保護児童が幸せな家庭を作ることができる社会作りの資とすることを本事業の目的とする。

2 事業内容

(1) 事業の概要

2020年2月15日に大宮ソニックシティで行われる日本がん・生殖医療学会学術集会で「がん・生殖医療と福祉の協働」をテーマにした市民公開講座を行う。その中の講演で、本事業として行った埼玉県里親会へのアンケート調査結果も披露する。

第10回
日本がん・生殖医療学会 学術集会
開催のご案内

テーマ: がん・生殖医療の量的・質的均てん化を目指して
会期: 2020年2月15日(土)・16日(日)
会長: 高井 泰 (埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 教授)
会場: ソニックシティ (さいたま市大宮区)
参加費: 医師: 15,000円 (事前登録 13,000円)
医師以外: 10,000円 (事前登録 8,000円)
一般演題受付期間: 2019年8月1日(木) ~ 11月15日(金)

主な内容:
・ Oncofertility Consortium Japan Meeting
・ 基調講演
・ 招待講演
・ ワークショップ
・ シンポジウム
・ ランチョンセミナー
・ 市民公開講座 (若年がんサバイバーに対する里親・養子縁組制度)

【主催】特定非営利活動法人 日本がん・生殖医療学会
【運営事務局】株式会社ヒューマン リプロ・K 〒326-0003 埼玉県市緑区鶴居6丁目19-20 Tel: 045-620-7560

第10回 日本がん・生殖医療学会 学術集会
市民公開講座
がん・生殖医療と福祉の協働

2/15日 9:00-11:30
会場: ソニックシティ 国際会議室 (さいたま市大宮区)

入場無料

【第一セッション】子どもをもつということ—がん・生殖医療を考えると—
講演者: 高井 泰 氏
【第二セッション】協働の現状と文脈での展望
講演者: 高井 泰 氏, 白井 千晶 氏

(2) 事業の流れ

- 2019年9月11日 埼玉県里親会理事会でのプレゼン
- 2019年11月21日 埼玉県里親会理事会での勉強会、アンケート配布
- 2019年12月 市民公開講座ポスター作成
- 2020年1月 市民公開講座ポスター配布

〔市民公開講座〕

日時：2020年2月15日9時～11時30分

場所：大宮ソニックシティ 国際会議室

対象：制限はないがポスター配布先は児童相談所・がん診療拠点病院、日本がん・生殖医療学会 HP で掲示し患者ネットワークで配信、さらにはグリーンルーペ、Fine の SNS で情報を発信していただいた。

参加者数：推定で130人程度（アンケート回収87人、準備した席数166席のうち80-90%は埋まっていたことから推定）



司会をする杉本



会場の様子 100名をゆうに超える参加者



内閣官房参与・吉村泰典先生の基調講演



日本がん生殖医療学会理事長・鈴木直先生の基調講演



杉本のアンケート結果報告



埼玉医科大学高井泰教授のあいさつ

市民公開講座は上記の基調講演 2 題、杉本の埼玉県里親会に行ったアンケート結果報告、静岡大学の白井千晶教授の講演、さらには 3 名の埼玉県内の里親から講演をいただいた。それに加えて市民公開講座の直前に NHK のクローズアップ現代プラスで放映された「がんを乗り越え、命を授かる～若い世代のがんと生殖医療最前線～」を作成した猪瀬美樹チーフ・ディレクターから多くの映像を交えた講演をいただいた。質疑応答では、「どうすればがん・生殖医療、あるいは生殖医療の現場で里親制度・特別養子縁組制度の情報提供を行うことができるようになるのか?」、「里親・養親になるがんサバイバーの生命予後の条件をどのように考えるのか?」という質問が寄せられた。前者に対しては「まずは里親・養親家庭の現状を自分の眼で見て知ることが重要である。」、後者に対しては「二人に一人ががんになる時代、だからと言って 50%の生命予後というわけにはいかない。少なくとも 60-70%は必要なのではないか。ただ、がんの生命予後も日々情報がアップデートされるので、情報提供できる仕組みを県立がんセンターなどと話し合って構築していきたい。」と杉本から回答した。

(3) 連携・協力機関

日本がん・生殖医療学会が共催した。

3 成果及び今後の展開

当初の予想をはるかに超える（実は 50 人程度の参加になると見込んでいました）参加者を集めることができた。参加者のアンケート結果から今回の市民公開講座での里親・養親当事者の講演によって里親・養親家庭の実情を知ることができたと高く評価を受けていた。「今回のメンバーで全国を講演して回るべき」とのユニークな意見もあった。埼玉県より「がん・生殖医療と福祉の協働」を大きく発信することができた。

今後の課題であるが、以下の 3 点になると考える。

- ・ 里親会（埼玉県里親会など）とがんサバイバーの会合（里親・養親の経験と知恵をがんサバイバーに伝えて里親・養親になるための支援を行う）
- ・ がん領域（埼玉県立がんセンターなど）からの支援（がんサバイバーの治療予後に関する診断書フォーム作成など）
- ・ 行政からの支援（パンフレット作成、活動への経済的支援、県 HP からの広報）

上記課題を来年の目標としてがんサバイバーが里親・養親になることを目指せる支援体制を埼玉県内に整え、その支援体制を日本がん・生殖医療学会の里親・養子縁組支援委員会を通じて、全国の都道府県単位のがん・生殖医療ネットワークに啓発していく。

埼玉県内で支援体制によるがんサバイバー里親家庭モデルを作る